



沙家統
風

特別
~5
6698
1



15
6698
1

上りて少くも是は及意
代別ありきしりて是す
才二のふく小権さしあはる
と新治既成りてりりり
しりりりりりりりりり
流りりりりりりりりり
つりりりりりりりりり
上りりりりりりりりり
水りりりりりりりりり
朽ありりりりりりりり
しりりりりりりりりり
所りりりりりりりりり
にりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり

沙金袋目錄

元日

若水

腹赤贊

毬步

胡鬼板
破魔弓

總引

春當分

若蒙

付糝

白馬

子日

初寅

卯杖

賒食

爆竹

付粥

踏弓

賭弓

危補系

具是妍

御忌

震

營

梅

殘雪

付米
數

初午

薪能

春雨

春駒

木目

柳

角組芦 佛刹

三才

目録



沙金袋 風

春

元日

前六僧正

今物之と志ありしめさるる處りか 澄存

瑞雲とさうり色目物なふくと物なま 貞徳

江戸よりあるまじく

門松や日中法相さうり富士の嶽 道節

年始うら老も八十程好う非 日如

おらあまうり年や宗祿おさふのま 宗畔

未吉氏

成就院

馬淵氏

抄春

ありくありいさるふ年一うこ庵うか
堺佐田氏 松安
 松り志たひら後家こころの松大坂北村氏 宗清
堺真光寺 以專
 ままといわや的場乃う始め山王寺
 乾坤の第の金具う大ううらと
駒井氏 可水
 元見やとりといとこし力れ祝儀
椋梨氏 光永
 貪らと約夫うこと多る家粉う耶
松川氏 一雪
杵野氏 春元
 浮勢海老を禱のさこり糖うらう
宮川氏 自安
 大うくの第や枕ためを立處
 うふまのまや大鵬とりの年
正行
 大うくのあまると家のまてやあま守
勝直

かしらあめゆとちりそ年ねとこ
大森氏 一長
膳前浅野氏 正全
 う道つ廿樂じや茶居蘊乃酒
篠内 紹節
 立しうれ年ゆらひのや門の松
橘 重吉
 二葉あしく二葉やむ月門の松
山民 宗友
 たりそすあまうつひつら社うらる
年 重吉
 年徳やせ界へうとと好の云
姫路堀内氏 交子
 小おぬり例年号や姓表式
堺水野氏 頼廣
 明くいさるむまよのるまそ世ね
大坂 本也
 酒うひらわおあもわうり縄
同世年氏 喜之
 よもやううや武じ筆のまや

明く年とりそのつんぬらなる 元徳

家祿をいし并く

希らりしやうらららる門の松 正近

門松の年のもくめり二葉なる 了首

難者とのり祥ちいそそ三ヶ白 観清

原穂酒やあまきちけまし酉の年 定勝

物さしを松よお生り花のま 正重

とつおのうらう子目おたひり始 道可

一とせの兄とやらんまら月 正次

ままやもろくう原も日本國 宗時

子の子の翁とさむじや奉りし意 正重

判形や一神分りあゝあゝ 頼廣

若書りや秘奏り始大師や 日

粧松やちうんもまうく思神のま 日

常も田又喜湯り初言る辨 日

事くこころの交野のまの光のま 日

年の結やとひく試筆の音袋 見也

とる餅り梅よりささうく鏡の寸 吉長

飯よりつるり吉盤や氷様 友親

元日や東風り風とまらうの祓 日

おじいさんのおまじいさんの書 武蔵州 泉列 霖月

年一徳意子の方さりのれい

聖光寺

玄保

十二枚のろうめたりりえきうを

月

葯蕪やふひのふいし物れまのま

紀列 藤野石倉

一入子

申のころの筆業のめりおの武蔵州

京平尾氏

幸以

年玉といひもくもくはるる解る

上山

書物と和國とともやるる紙

専弥

礼や歳書る而后今物のま

吟夕

大くもくもくはるる民の電う非

太源

大くもくもくはるる海の物業うを 涼 長重

りうお寝くると物まづくとめる年 况玉氏 一武

めくたひや難茨の膳のひりう結 大坂堀山氏 貞利

書物の力乃ため家の強きあか 大坂山城大塚藤原 知凡

神の若やうふあああひとく 月 貞因

いそりうもくもくはるるふのま 樋口氏 利元

年玉のまの毎年一の麻子うを 西田氏 宗次

わくもくもくはるる障子うをふのま 道知

粉りあつて銀もまじや残餅 一入

秋といふも糖ももも色があがら 元揚

年男あるの中一さねや女支縄 植民 道如

正月乃の字や神代乃新縄 大雲院 笑散

この光のこのめあつとや 斤山氏 作保姫子 道德

素子乃の瑞や延命一三ヶ目 俊則

作保作よ立錦本や門の松 堺 定菜

親芋乃子りらうらふおらんか 京 武方

素物乃船の年一南乃帰帆か 堺 一武

年やこ一門くはまのまのま 泉列横山氏 秀秋

いふおやむとこま 大坂 安明

いふおやむとこま 大坂 一化

年の卯のあはれうつる物そまのま 大坂河内氏 正廣

後の立まふ露や子とせ門の松 堺佐田氏 松安

まくのま 同

三ヶ目の中一 同

素子や気そ若信古た又の石 同

若くも 同

宵の福 大雲院 勝元

杖持筆乃のわまる 同 翁舟

本家ま 堺 重則

藤...のつと...
 大坂 貞良
 伊予小松住
 可夕
 大坂 本也
 貞正
 大坂山本氏
 平勝
 日吉
 恒貞
 堺
 廣友
 大坂森多田氏
 為宣
 日
 為宣妻
 十七の年...
 日

長...の...
 安成
 薩大田氏
 謙也
 成政
 正行
 塩山氏
 知凡
 家勝
 恒内氏
 交子
 宗悋
 堺
 宗光
 河内市恩
 清正

所番

下

さうめりやまのりつ正月苑のま 堺 正時

綱釣や年一徳神乃のゆあさ 日 頼廣

蓮葉乃山や子よるるし物 大坂 重次

年一徳い世家乃の紫く 日 友高

あひよあふ夏乃正月の卯 北河氏 宗清

一二三志さうか 日 花乃ま

凡人も里とあゆるや梅の 日 日

大あや移も子斐乃并 大坂 日

笹竹も実黄門のうさ 河列 寺村 貞富

一葉移くあ代乃根さ 茂知 門の松

書物や於文王乃清代 同卷田 二十

部くくもや天徳開開苑 大坂 器水子

元日は礼よ 日 震う非 元清

明系い 勝園寺 ぼふ 減 筆 西 要西

書物やいのま 井田氏 角う 丑の年 喜之

門松い 河列 右系た系乃 先清 大更う 非 友親

務竹も 宗畔 来く 友親 てる 宗畔 ひの 表 日 非

あさ 宗畔 ころ 友親 や 宗畔 あ 友親 せ 宗畔 の 物 宗畔 め 宗畔 鶉 宗畔 城

年 堺 の 堺 内 堺 表 堺 立 堺 多 堺 れ 堺 い 堺 一武

抄

二

門松ハ久シク嘉例ノ志トシテ

あけつちハ目切交ハおあつ月

あつ年トコト世思ハ解ノ鏡ノ非

業子ノウラコトあつ包ハ祚ノ云

言然ハあつ年ハト年ノ余云ハ

何ノモしおハハノ事ハ乃々月

東ノ事ハ東海ハハハ事ハ云日ハ

わハハ目切交ハハハハ試筆ハ

言ハ海三云ハハ和方ノ勢ハ

まハハハハハハハハハハハハハ

家勝

外交

成經

勝明

宗暉

息

一峯

重定

正重

以專

王云ハハ庶人モ納寸試筆ハ

元幾ハハハハハハハハハハハハ

年ハハハハハハハハハハハハハ

目ハハハハハハハハハハハハハ

とハハハハハハハハハハハハハ

冬ハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハ

教ハハハハハハハハハハハハハ

書物ハハハハハハハハハハハハハ

勝田寺 要西

宗暉

日如

知休

重利

勝明

一之

器水子

光次

宗暉

年々もしくふうつまふの香あり苑の去 大坂 伯貞

急なやのや四角四角よ四方の去 同

び國の若書や古今和奇 宗友

急さしくそ誰よあらくこ居齋の居 大坂 昌次

門松や貝松交存よめくまつり 堺 重賢

八百菊代り世やうー田柿の去 日 勝明

年の根乃あまのそこのや門の松 平尾氏 幸以

豆米の比くさるりたりかんた 淀 久治

菜子やう下一菊民をうーあめん 堺 成政

之ぬい乃りこのまよあよ言少袖 嘉雅

賦や賦志のうか他代そ民の去 塩山 知孔

急なもきりめそたる年始 久下 重成

てうと目や中末久ーと目の去 河列 清正

中園を東そうらそああのと 茂木 安春

商人ももしくよたつるや門の松 大坂 本也

急なもさうりてこも志あよあ 北村 宗清

甲のふしと物うけいた一又後うか 堺 重賢

かたうくの年とり物う義のうき 加納氏 不作者

年くの年の始のうー 松尾氏 昌次

急なもくや云急と急る 河列 清正

年一寄もふるやんやを乃る云 未元母

さとし枝乃木いさしやんや花の云 宗輔

以初陽よいさしやんやんやん云 賀列高田 正種

知仁勇う年一使もゆる云 平野氏 良賢

筆のようやんやんやんやん云 掠梨 一雲

為う代や帯一紐とびる云 吉勝

わー引乃ぬのがあつさしやんやん云 女子 梅

治まる代やいばまう一まら治 喜多田氏 為宣

花衣縫やうけさるまいぬの年 金田氏 治長

書物の奇一のらやさる信氏 信顯

陰陽乃二さるさるのやんやん云 交云子

東うらと福んさるやんやん云 為宣

身さる云乃泣の枝おら門の松 大坂山嶽大塚 貞因

うけ物さるさか枝さるせの産産云 越後 豊成

云云乃初とさるやんやん云 本國寺 素田

あさうらと初門の戸やあさる云 宗時

中さるさるさる包さるさるさる云 河列小野 日 常弥

雲さるさるさるさるさる云 常弥

家藏と初の云 宗秀

深初や出集もようさるあおさる云 宗秀

冬幾や年乃や日くう始

佐野氏 教心

一とせと二季あやまら門乃松

宗畔

丸粒も煮くくそくまのきこ豆

同

せいよう道新例たうえん年男

正近

三ヶ日あけとの門う門乃松

正也

よりくひのひらりまよとこの鏡餅

同

元日はあはれとま初く

初見やあはれとま初く

但列生野山氏 正則

年のあはれとま初く

宗勝

お年のあはれとま初く

知少

三ヶ日やあはれとま初く

為宣

いりよこしあはれとま初く

日妻

月あはれとま初く

宗俊

大のあはれとま初く

政義

あ代や元日候乃あ代のま

正安

とけくつくあままてあ代の始

未元

屋乃内のあはれとま初く

政義

明暦三年

年一もくあはれとま初く

西田 得行

あがりらあはれとま初く

定勝

年と約く苑のうがをせやあゝ愚義河 平盛
 昆沙門の三守やこて功徳治 良知
 年一徳や年のまらり乃神乃云 月
 去乃字としと約徳丸の若書外 清光
 去立やあくる年の浪うら 信就
 去立やさつちやたつていと舟月 塙 勝明
 新うつ世人形橋乃鏡妍 康重
 去つひ菜乃ほおちやくふの去 政能
 門松よせんとうとうる震う那 山岸 道可
 年一玉いよりくひるう仲煙雲 忠政

初日やむいふか暮そと高月 塙 常頼
 瘦松も年と肥たはあり 加納氏 納元
 よろこふの家里いとうふ年 金田 光清
 辰藉酒と砂のやち年いさの松 橋 重吉
 正月乃正まふしと礼笑う 井里 喜之
 う言うとおとまうら申の年 上牧 元奇
 去年とくも一転よとてと獲亦 勝元
 松もやしとんよんよの始あふ 清水氏 不登者
 苔も餅梅よつとやふの去 大松元
 修梅やうひそくおとくふの去 好武

物胡のくまの料紙そらあゝのしと 但列生野音 為重

たせわと年愼といふくまあま酒 春元

年愼やしとりの若あふり始 日

年愼乃神のみとくまや流餅 朝信

と物せらるる大地や至る月乃年 河列長瀬 重利

あ織と程く

いふまも併りま初の子あうか 狩野 自赤

深深乃智や武家筆の海 永養寺 一有

元日よあうりくけや冷酒宴 日

三ま入所あもくまや三のま 日

三人の中よ日とくく武家 小原氏 日

書物いと物わくくいの震う所 正在

松竹も武家乃あもわらふ所 日

寝あまいさおらくあせ年男 嶋本氏 日

いつま先とくま乃始や大地人 正伯

未乃年よ

礼とまきく未もまきと年始 日

え乃愼のくくや地の花のま 日

遊年のあま卦を暦のくく物 日

基やくの始や奏す 未もま系 日

邪之や斌じ為も去く幣帛 山田氏 善種

太平の朝元の日の大や 山田氏 日

年姓や以代よあし守門の松 山田氏 日

輪やがあらく 山田氏 今徳

書物やのとけく 山田氏 西武

廻文

つま 京 豊信

着氷

あ 宗畔

あ 鳴本 正伯

あ 小原 為次

あ 小原 正在

あ 山田 光正

あ 山田 善種

あ 山田 素白

あ 山田 忠清

あ 山田 正華

あ 山田 正在

あつちのりくたふつふのりか
 若くをほくつらせ年男 春元
 弁きのともしゆらふらふら中嶋氏 貞辰

腹赤贅

贅元もあつち腹赤や浪の上
 釣あつち腹赤の贅やう在端 一有
 贅のりくたふらふらふら嶋本 光正
 あつちの海やまふらふら嶋本 正伯
 ちのりくたふらふら山田 善種

迷打 胡鬼板 付エビスカキ
 破魔弓

年玉やいぬらふらふら嶋本 友親
 一天のせおつちの弁の地玉嶋本 正伯
 弁じのりくたふらふら大坂住 素白
 ふん月とおつちのりくたふらふら山田 女子
 胡鬼のりくたふらふら堺 善種
 破魔弓のりくたふらふら日 松安
 あつちのりくたふらふら中嶋氏 貞辰

総引

とよつあとのひははけりてあふのま 善種氏 正伯

まらふこめつあとのまらざる女 素白

総引やまらふはあふ余の何 山田氏 善種

船の境総をひひもる 平尾氏 日

年のおもくひひあつあつ 幸以

引総もつた 光正

ひひやまひあつあつ 一有

春節分

春風の音分は船の遠 小原氏 正在

まゆくの音分のまらのおひ 山田氏 善種

年越く年うへ 嶋本氏 正伯

まゆくの音分 素白

ゆくまの音分 光正

若菜 付録

物分り 小原氏 正在

摘 素白

おくら守色しつるふねのりて業大坂 貞富

あしつらふよるふねのりて業山田 善種

摘よるふねのりて業大坂 舎次

摘よる野色に業や法般佛の産大坂 翁舟

あけきの味いよるれと云らふ上野 貞因

じつまうしと云らふよる入業上野 元奇

まじりや分つ摘るあらの系山田 素白

まの陰の露や白毫佛の産山田 善種

貴やあふふ國公佛の産小寺村 義知

七経をゆくゆそめてたつた 可雪

神代よりつらり初めりる業坊 示光

あふゆりる業日 以專

あつたるやあつらふあつらふ日 素白

ららつらつらつら摘らる業日 忠政

ば王女ららつらつら佛の産金田 吉重

まじりやあつらふ業江野 政信

あふゆりる業江野 常順

又つじり食後撰集りる業金田 成徳

あふ佛の産大坂 治長

あふけりる業大坂 如真

去年の道一社とや引籠と号業 宗政
 扣つていへといふ佛の座程小 安春
 喰へし止めせふの鬼と佛の座 友之
 苑いぢとといふとるあぐりあ業小 石倉氏 一子
 年とつじ境の住業のわらふ小 宗畔
 路川のあらふ業や扣ふ所 橋 重吉
 扣ふとめし喰やといふとる業小 大坂加納氏 納喜
 雲といふといふとる業小 治之
 精といふといふとる業小 菅田 東宣
 けいといふといふとる業小 北村 宗清

わり棚やといふといふとる佛の座 自母
 むと業つといふといふとる七種乃の業小 春元
 七種やといふといふとる六種の苑 日
 年といふといふといふとる老忠給業小 嶋本 正伯
 むと業をといふといふとる業小 日
 野といふといふといふとる佛の座 日

道一

野をといふといふとる業小 北村氏 日
 芥と業といふといふとる業小 宗清
 月といふといふといふとる業小 山田氏 宗友

摘とりし一鉢もやさるるの佛の座

大坂

如春

ふらふら人喰や上人佛の座

日

秀行

つら餅をまじ喰ふそらけや尊業

善本

志ろふらるるおらわらうのまじいぶ業

宗時

甲午世業といふもさるるやたのま

月

かり入るるもさるる物とふのま

月

酒りや塩りぐんとくもるる業

月

つじのこや秘の事とて志くは日の

月

七種の餅たきまゝあゝ

宗後

芥やふら秘をまじ喰ひ秋食ふ

宗久

安も又澤去のまきり佛の座 月

義乃目の内よらんくろり佛の座 一雪

汲たぬしわらもや義のまら入業 橘 常知

下筋を知らぬけりてやも業 橘 重吉

よもつゝく奇や七種の七くまり 秋田 友親

玉露も一子乃内り佛の座 秋田 正信

去年の田乃おさけのたや仏の座 江列山 謙也

摘て妻や七里うらふ佛の座 河列松原 正永

らんふんやまのふ業とつまも喰 河列松原 則次

和ひも業野とく杖のまら凡 吟夕

これ人の七日まのりそ佛乃度 横山 秀秋

とくわまの勤をまのり佛の度 正治

わくくんと念ふるや佛の度 貞良

是の又とるの作の佛の度 信顯

教のくたもあけのりたる 元富

川岸や彼をともひた仏の度 重利

とくわまのしと福をりやき業 田中氏 信光

まのりてとるのたつとる業 光正

とくわまの業のたつとる業 翁母

とくわまの七福をりたる 昨別

はるやとるの業のくたつとる業 久翫

奎乃只くたつとる業のくたつとる業 嶋本 正伯

廻文

ちりあつたつとる業のくたつとる業 堺 光次

おけくたつとる業のくたつとる業 伯貞

白馬當會

白馬のちとつとる業のくたつとる業 成政

白馬のちとつとる業のくたつとる業 正在

白馬のちとつとる業のくたつとる業 正伯

白きや白糸乞の棒中嶋氏物貞辰

白馬乃常りふら被る飯小素白

卯一杖をさし白きもの殺よ貞行善種

白きひく月のころや善種

廻文

あつりや白きや白き海連白光正

子日

人あまのくも小松も子日勢別松坂加友

子日よじ奇いあらよのり善種

引て小松おる光正

正多の十ハ云乃子日日

そのりも結年の始乃子日嶋本正伯

小松引乃方くわや乃子日日

引芳の小松乃流の子日素白

引川の引乃やおさ乃の日

引次乃ひ乃乃の子日正在

小松引乃白乃乃乃乃乃翁舟

幸乃の松乃わ乃れ物一有

引云乃乃乃乃乃乃乃乃要西

かりおこす子日の松や霧のま
 糸やまじくやういおこさるる松
 引根よつくも子の日のまらふ
 引急せる松の正月のおほ糸や糸
 雲あふり引松山は子の白うさ
 貴賞よ引松板も子の日か
 小松こそくそくそく引子日か
 子日のまじくもいひの松はまらふ
 松を引くはあひあはるる子日か
 松のまじくはうら子日の持ひらる

喜多田氏 為直
山田 善種
山田 頼廣
 未吉
 則正
 春元
 一雪
 正也
曹 定勝
村山 風子

初寅

初寅乃まきこみそむる松は
 初寅やあはらうの卯杖はまた行

嶋本 正伯
 素白

卯杖

氏と氏とおかす卯杖や後らる
 ふうの卯杖や月の松かとし
 詔もくもくは移ゆる卯杖か
 是をまらうと詔ある卯杖か

山田 一有
 善種
 翁舟
 素白

歩社よゆふ爆竹る神楽山田一有
くふ小豆階下下めも羽ゆ柱うか山田善種

踏奇前會

志乃の作教免あく道より山田堺頼廣
是も又教乞う帆掛船一有
揮のちも常りようたり踏奇嶋素白
あやうじの教乞いの作階う赤嶋正伯
糸よまよの教乞や雨の脚小原正在

賭弓

志この矢も賭弓のひく新創善種
賭弓も人あつたをため一有
のり弓の佛法王法の力う赤素白
賭弓やあがり響るの弓さうか正伯
賭弓やいてまへ退く歩政局月
のり弓の文あやうけあめ正在
厄神系
やくぎんあつて運あめ正伯

具足餅

服まらざるやうにひもつゝも具足餅
 なるはきやま下もひの履餅
 ちよるゝもれ運のきけり具足餅
 つひもた具足乃餅ひもつゝも
 三らや具足の餅も胸の程
 とやむらゝゝも具足餅

善種
 正伯
 日
 光正
 玄保
 素白

御忌

戴りやゆ忌は細も 大音寺 一有

ぬらつひの忌のそらも御典作
 水忌舎とら色明も御下のおち
 六海や忌忌の所も忌係る
 湯中師ハ勢も美屋も忌の月
 忌の事よ忌忌よお忌よ忌
 とらや文殊みよあ日も忌忌
 福んくゝの忌も忌も忌忌

要西
 光正
 翁舟
 素白
 日
 光正
 正伯

震

くらり流くこつ引 終り雲震 一有

和綿のほいぞらや心のひき震 善種
 妻立とくすりやうらや一うす 翁舟
 熊坂うらうら 堺 長正
 神よく震う角もく 素白
 震きく 金田 治長
 巨龍さく 秀親
 うすんざら 戸聖氏 道德
 治まら 正在
 うら 玄保
 ま 善種

かしら 光正
 夫人の 時翼
 雲の 翁舟
 雲り 重成
 三 松安
 三 正則
 横山 井聖氏 行正
 須弥 一有
 に 詳庸
 糊 安成

少春

七

たがわつく震の衣や酒袋
 春元
 山の雲も震の衣やのりも人
 成政
 阿方よも震とのと角りか
 霖月
 おそれ祢と砂寸音もつらも震も
 松安
 作保作や震の酒の酒いへめ
小原氏 正命
 山口りそのつと酒やう寸震
 成政
 甲よりもも震の衣やの寸立
 光永
 のとむじとくも震もよすむじ震も
 正伯
 くら梅とすは引こは引震も
 月
 日月と交り玉よ震も
 正種

まい又役よも立ぬも震も
 正也
 天や地も震の衣も心もも板
 勝直
 菟の竹も震の衣ももりり
官津氏 定勝
 九もとすもも震もや公事も
大坂 貞因
 たまの飯もり山もも震
梶山氏 保友
 一ももももも震もも交りも
 正近
 山をどもももも震もも
堺 喜教
 困うももももも震の衣もも
 安成
 吹まもも風や震の衣もも
 宗群
 地下もももも震の衣ももも
 宗秀

志や震子の雲をく仲燵り非 幸治

一圓忌進のるり

りすまの思や弘誓の船の一とるり 光正

比敷の山の震や糸の鬼門をわ 及母

転るゆきく山のわくく思あうか 元奇

風よあ一たまるまあさ衣う非 一雪

あうのわく眼下あうあう非 和列金井氏 元成

少きとらとまきひのらん思震非 泉列 宗晴

物あうて初り酒もいん震非 一雪

驚

徳野子の力二

驚や世界のまといつらとるり 素白

驚る声やまの所古今の席 以專

驚やまの木の母のふとく子 月

驚る子り女とらとらとら初る子 成政

驚と驚や平了の推うりり 西之

驚るはや己の事絶お今衣る 河列世南村 傳誉

驚や物あくてもし陀羅戸品 以專

編旨梅や驚のまよとらうの勢 月

素白
 長四
 貞良
 正近
 勝明
 吉實
 松安
 光正
 保友
 伯貞
 素白
 長四
 貞良
 正近
 勝明
 吉實
 松安
 光正
 保友
 伯貞

吉實
 重俊
 松安
 正重
 一有
 玄誓
 素白
 月
 善種
 吉實
 重俊
 松安
 正重
 一有
 玄誓
 素白
 月
 善種

抄書

年

音やうんふの歌のひの合衣鳥
 光正
 音のうらふ竹牧あるを合衣鳥
 頼廣
 付あらず梅よ音の公使の号は
 正在
 音の玉子や音のりきり久し
 月
 音の物書うつせ柳一うと
 月
 音とともやありせある人の声
 正伯
 音の物をも四声の音の庭
 月
 音もあふの音やあふりて
 善種
 巢まゝの音や音ののりて
 一有

三回遊音の

三返り色いことと合衣鳥
 素白
 合衣鳥も志んらうと系柳
法然寺
 調友
 音乃物寝いまらうと系柳
 正種
 やーとこり梅よ花つく合衣鳥
 春元
 音おにたらゆると梅り
武村
 宗清
 色せぬやあつと合衣鳥
 光正
 千句中二
 系柳風やあつと合衣鳥
 月
 梅竹よあつと音の
 春元

多とと石をりふぬり梅乃花 秀秋

白の糸より糸の梅つたらくの塚 宗久

是やけ二り一梅梅梅 一有

あゆや梅と梅乃花衣 松安

こけおぬら男じらひのう花の兒 月

八重よ咲梅り小糸も九糸の 正在

も貝とくらの鏡梅乃長柄小 隆展

雪の友よふこくか花乃兒 友親

つらあまの枝のどららそ花の兒 武村 宗清

木の母乃うお子あるし花の兒 太原

白のうーとめとこり花の兒 一有

せもあひけ月のでつとと梅 素白

紅梅る月のあううる若松つ非 月

つららお白の梅の糸うらう々 翁舟

火とと守花や火灯の窓乃梅 善種

さしととあみの雪り梅の信 月

らまじつがと花やつこのみ花の兒 自安

美かつうおつらひとろし花の兒 但列山甲上尾 茂明

うつらやとめよめりめびめ乃花 正種

らつらとあひの松と花乃兒 月

つがうや折掛子の窓乃梅 正伯
手は觸きを隣差るれや梅の香 月
香けのまの口をわや梅乃花 月

初去の山野能高許りそ

さのふの梅咲者よ小野 宗時
一風は起てらつとこのひや花の兄 自守
終梅乃花のさるまぬさるれ 有馬住 林美
号や礼教つら寸花乃兄 峯堅
ふ年の松より梅や花の兄 河州 清正
あけをらや梅り香のたぬ鼻の穴 桐塵

つがじまの母官らひのく梅乃梅 大坂浄安寺 清順

梅乃枝よりく梅乃花の兄 勝直

終梅の枝さるとまらや一うつけ 加納氏 宗時

終梅乃自のたとひるまらるる 納元

梅乃枝や宿唐の神乃神乃梅 河列松原 元奇

花ららるるまらるる梅は神 大坂 武次

天神乃神乃花の兄 日 則正

花の真志をまらるる梅は神 宗次

見らるるせうとやうき梅の花 橋 霖月

終梅や天神七代の銘は如 重吉

廻文

あつひかへは梅かとかうん白ひり
りあつひかへは梅かとかうん白ひり
おつひかへは梅かとかうん白ひり
おつひかへは梅かとかうん白ひり

残雪 付氷敷

残雪の川よるも遠の流り非
成佛のそりよめ脱乃雪佛
雪佛の消く乃流や去地益
一対の勝眉や乃流の雪

光正
久勝
宗由
善種

お師百ヶ日よ

日おお師も消くあつひかへは
まじとよう二文字おまきよまの雪
あつひかへは梅かとかうん白ひり
あつひかへは梅かとかうん白ひり
あつひかへは梅かとかうん白ひり
あつひかへは梅かとかうん白ひり
あつひかへは梅かとかうん白ひり
あつひかへは梅かとかうん白ひり
あつひかへは梅かとかうん白ひり
あつひかへは梅かとかうん白ひり

日
素白
一有
勝明
政延
一武
兼正
貞直
頼廣

冬より一神乃雪かすよまらぬ
重次

秋は此功とくふやまの雪佛
正全

春やうまの世とくふる雪佛
秀親

雪は元乃勝とまうくふま日不
重父

春の雪ふおあうあぬ今も
正在

消れや本地も志やく雪佛
日

あう初う元乃流よま春の雪
母小原正春

あけの心そてのうんの雪やわさう山
宗畔

消くもあも心身肥るつと雪佛
翁舟

雪よ流つけまらま春の日脚不
宗清北村

春の雪ハ童ムアハ元乃泳ぬ
三政河州

春日よあも神あまきや雪佛
了知

流まし神と氷や雪乃元幾
安春茂木氏

つお備つあやあうまこのる乃雪
以專

雪消くくろひひのひまけふ
久重

消く又消させしあや雪佛
正伯

見よ心くもあまうく氷か
重安

ときこつけりまの氷は衣川
伯貞村山氏

氷消く流あうひり川乃口
時雨

わく解りあまあしとふ後院
正在

のさくしめく母よわひて

とげくひのうー親子乃縁や厚氷
功ありてくみ解よるりか氷面流
まの日はまあるとある丸雪か
伯貞 善種 定正

廻文

消るげなほやなほよ残る雪
あつる雪はま日ふひのさくしめく
流るる雪はま日ふひのさくしめく
あつたの雪 消る雪のさくしめく
伯貞 政延 了知 宗安

初年

初年の定つるくひ二月廿
初年やわけしそまつるみ種あ
初年のいさじこ三すのらう
笑散 正伯 月

三日を別し

よはのどののようる初年を三日か
初年や東寺うけそ結あやすめ
初年ふのらや地社めん縮花
初年のひつめい縮花あり
勝直 善種 翁舟 一有

初年一よ新く海るや言賀のびし 一有
 牛あそそあらあや初年一この勝 光正
 初年一ふ丹とそやあうささる并か 素白
 初年の注事や人の足よりけ 同
 初年とふふうあうつく神のお 松安
 初年一牛一うらなをさき日あふ 勝明
 初年や祈禱よりりう申此年 調友
 初年や未申一肩いぬいさる 不知若

新法 付二月堂

あう志とる新一乃法の勅小 野と口氏 正壽
 考乃とるや勅の能乃教案 定成
 辨の本乃能をむ勅う那 重利
 勢の句ひけり勅乃能たま 道悦
 新本う勅の能乃知をさく 一有
 芝考ものふもゆる火よ勅小 素白
 ちやうとまいる勅の能やこをこ 正伯
 けらりおの通の薪乃能をけ 同
 之まあうあ乃あふこやこ月堂 素白

春雨

草一本の万病ありまよ乃雨 後氏 武重
 春雨や寝入木の目どかこしり
 よめり萩乃ういさりさひのぬ
 まるや花守夜月掛さし 一長
 春雨を花のえみしのたのこ 得壽 安治
 春雨の木の目くらの房 京 世俊

春物

炎してや春も入いんまの物 道知
 春物乃まことやらんをのり 太坂 道清
 いんかきんてんてん 光正
 春物や帝物よ帰る法の 素白
 春風もさし勢や野おのまの物 一有
 春物やま春をふこ 正在
 春乃小まもつこおる 正伯
 下筋る物乃すそ 月

木目

柳發もまびいといふはかゝるは目也 政次
 去をそ眼下いふはかゝるは目也 井世氏 喜之
 花黄楊花の目と見まはすは黄楊也 重利
 去年といふは今年いふはかゝるは目也 正伯
 老木嶺本よりふは霞の本乃目也 正席
廻文
 孫ののこまみかかゝるは年の目うを 泉列并中 正春

柳

先神言の老屋万句よ

うとみとるといふは柳の本立 大坂 宗茂
 敷の内乃柳と長のころし 宇治 一音
 弁せとてや移さきそは柳 宗暁
 つじぬきころこ梅乃枝とら系柳 素白
 腰まともつら分髪乃柳也 大坂 昌次
 本男や引とめらん柳髪 堺 成之
 長き枝乃柳の糸の控杭也 河列小寺村 空昌
 ちかきやまよさけ髪乃柳腰 友之
 髪づくじ枝や柳乃まをこ 宗暁
 青柳乃露や丸糸面人寺 頼廣

まこまここれ川つららや糸柳 正勝

雲絵よひこまるとかろや柳うま 以專

こまの西をもと付やせん柳發 則正

久本も本末んおろくと柳水 正辰

まき柳のりまや天祚家世言 勝明

そまよとろやあまといまきの柳發 以專

柳發ふひと一かのかめ水 親聖

柳發いつくくうく風車 清孝

柴よ所柳の發やあひつら 秀盛

海あつてあ目もあらやう柳 道可

あわまもあひいひりまづら柳 安成

ま乃まやあもまきうの系柳 宗畔

川つららしらの名や柳發 正平

川よのまこれよひく柳發 廣林

とまよとまひぬおよそまろ柳發 素白

は華うち乃南を妙るまきや焼柳 善種

川船もつまひか乃柳發 日

さとりうえまひ花ひまや風ん春 一有

まつむり九尺乃かつ柳發 光正

柳發といつまめららの柳發 正在

縁子やそのまゝいと乃木柳 春元

風よもこほゆるおろ柳簪 正伯

花うゝ柳の髪みくるまふ 日

うれそく風もあてともや柳簪 日

風のこい梅つひあ〜柳簪 正種

花若葉箱乃のまゝの

中よ廣はみく

雨あも色池きりよいこむ柳水 善種

雲風いふけとうこう思柳水 泉列石澤 定正

中よ思や枝あもく〜を草柳 種列金舟 正盛

あそころしより縁子りおハ柳 吟夕

あそく根ま〜ある〜ん柳簪 勝直

うらいつま〜る神よ柳 脇 以專

雨よんる池の柳いけあ〜る 光正

風〜くるる柳の髪や〜さき長 井村氏 清貞

吹風やみとあけ〜せ思柳簪 宗秀

響あ〜そ〜ん思志これ柳水 日

仔細山や尾〜ら〜んせぬ柳簪 廣友

花あ〜ころ〜れ思麴〜や草柳 宗清

鳥も葉と〜けこよ〜ら〜や草柳 前田 正勝

之指り座のあらしり神格
正在
けつる髪も刀のせりる雲の若柳
翁舟

角組言 付薄

角組ととるころうのわりの尻
松安
角くじやあまなれのりさじ
素白
つゝの組や野へる前髪の系為
善種
仙人り角組言の文このこ
正伯

佛刹

かひまのころうけあや涅槃像
重利
刹うしころうとせよ涅槃像
元時
一心の外る佛の刹まじり
正在
文殊神刹りりそそあや涅槃像
貞晨
帰一居ころあひくや涅槃像
光正
涅槃まそあまの辰やすれ衣
日
刹心ひ佛もころうと中みり
日
佛とそあそそ煩悩のころう
日
辰まそ涅槃のままとのかりり
玄保
おこお心佛ころうの涅槃像
日

春元
 自亦
 善種
 月
 善本
 以專
 要西
 賴廣
 素白
 日

餅花乃らるや涅槃もまきの言 日
 入滅ハ八十氏もあらくん氏也 翁舟
 いせあふ佛のありも波岸也 正伯
 八本も今もあつる縁らんか 日
 摩也くららあつるあつる涅槃也 日
 ありんか涅槃傍法末世也 勝明
 素也あつるまのやまの涅槃門 一雪
 ありんか佛の別も物鳴 月
 入滅とありんかの毒り沙羅双樹 正壽
 夏のをやるるあつる涅槃像 宗時

舍利くと殊教とらぬる涅槃像
 正近
 彼者も涅槃の者も同一時
 一有
 何れか涅槃の者も同一時
 翁舟
 何れか涅槃の者も同一時
 貞晨
 何れか涅槃の者も同一時
 月
 何れか涅槃の者も同一時
 一有

沙金袋

